

読売新聞 きょう（1月18日）のイチ押し

1面・社会面 阪神大震災26年 コロナ禍 心寄せ合う

6434人が犠牲となった阪神大震災から17日で26年となり、各地で追悼行事が営まれました。

- ★ 神戸市などが営む追悼式典「1・17のつどい」では、コロナ禍に立ち向かう意味も込め、被災直後から神戸で使われていた「がんばろう」の文字が竹灯籠の灯で浮かび上がりました。
- ★ 兵庫県は新型コロナウイルスの感染拡大に伴う政府の緊急事態宣言下にあるため、追悼行事の中止や縮小が相次ぎ、つどいの会場の17日の来場者は昨年より6割少ない約2万2000人でした。
- ★ 市民団体「市民による追悼行事を考える会」（神戸市）によると、震災忌の前後に開かれる追悼行事は、昨年比3割減の約40件にとどまっているそうです。
- ★ 社会面では、亡き人を偲ぶ遺族らの思い、追悼行事での様々な感染防止対策を紹介しています。

1面など 内閣支持続落39% 不支持49% 初の逆転

15～17日に実施した読売新聞社の全国世論調査で、菅内閣の支持率が39%、不支持率49%と、初めて不支持が支持を逆転しました。支持率の下落は3回連続で、昨年9月の内閣発足以降で最も低くなりました。新型コロナウイルスを巡る政府の対応を「評価しない」が66%に上っています。緊急事態宣言が発令されている都道府県の知事からの時短・休業命令に飲食店が応じない場合の罰則を設けることの賛否を聞くと、「反対」が52%で、「賛成」の38%を上回りました。

他紙と比べて

ワッペン企画「コロナ最前線」は、新型コロナウイルス感染の「第3波」が猛威をふるう中、コロナ対応の最前線で奮闘する現場に迫ります。第2社会面に掲載の今回は、高梨ゆき子編集委員が、ECMO（エクモ、体外式膜型人工肺）をつけた重症患者を運べる最新車両「エクモカー」を使った緊迫の転院搬送の様子取材しました。